

イネ科ドクムギ属

産業管理
外来種

ネズミホソムギ (鼠細麦)

Lolium × hybridum Hausskn.

自生環境

道ばた、河川敷、野原 など

原産地

ヨーロッパ

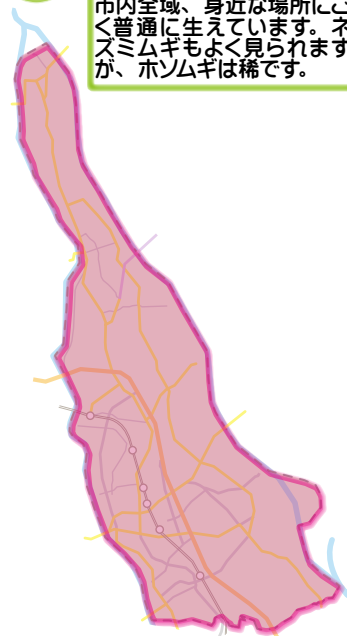
予想される被害



風媒花なので、花粉を空中にまき散らして、イネ科花粉症の原因になります。繁殖力が強いのですが、牧草として有益な草でもあるので、周辺に配慮しつつ活用したいところです。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所に広く普通に生えています。ネズミホソムギもよく見られますが、ホソムギは稀です。



特徴

- ☆ ネズミホソムギ、ホソムギともにヨーロッパ原産の多年草で牧草として世界じゅうで栽培されています。しかしこの2種類は交雑しやすく、その結果誕生したのがこのネズミホソムギです。ネズミホソムギも「ハイブリッドライグラス」と呼ばれ、同様に牧草として広く利用されています。
- ☆ 初夏を中心に、茎の先に30cmほどの長さの穂が1本つきます。ふつう穂は枝分かれません、エダウチ型と言って、さまざまな枝分かれが見られることがあります。ふつう小穂の先には芒があります。ただ芒の出具合は株によって、また同じ株でも小穂によってすいぶん異なります。
- ☆ 世界じゅうの畜産を支える重要な牧草です。一方で増える力がとても強く、イネ科花粉症の主要な原因植物にもなっています。この点に留意しつつ有効に活用していきたいところです。

ネズミホソムギとホソムギ

ネズミホソムギ (イタリアンライグラス)、ホソムギ (ペニアルライグラス) とも、ヨーロッパ原産の多年草で、牧草として広く栽培されています。一般に小穂に1cmほどの芒があり、長さが揃っていて、次に出る若葉が若芽の中で渦を巻くように収まっています。一方のホソムギは小穂に芒はなく (稀に短い芒あり)、次に出る若葉は若芽の中で2枚に折りたたまるようにして入っています。

1本の穂が長くのび、そこに小穂が互いちがいにつく

しょうすい
小穂

ネズミホソムギに近いタイプ

長い芒が多い

のびた
芒

よく見ると
短い芒がある

ホソムギに近いタイプ

ようぜつ
葉舌

葉耳
ようじ

白い葉耳が目立つ。
葉耳は茎を抱く

エダウチ型の ネズミホソムギ 穂が枝分かれするタイプ

枝分かれの
しかたは、
穂によって
さまざま

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

